

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

)世界遺産としての価値を伝え守る仕組づくり

- ・ターゲットや伝える内容に応じた適切かつ複数のツールを用意する必要がある。
- ・関係区市町と役割に応じた適切な対応を行う必要がある。
- ・H28年度に策定した情報戦略に基づき、各種ツール及び実施機関により情報の違いが出ないように、統一的な運用が必要となる。

4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目	世界遺産情報発信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの多言語化 ・価値説明用の映像制作の実施 		「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の価値をしっかりと伝えるとともに、世界文化遺産登録となる年であるため、これまで以上の情報発信について、登録内容にあわせて手法や内容を充実させていく必要がある。	現状維持
	世界遺産受入体制整備促進事業補助金	<p>これまでは巡礼ガイドの絶対数が不足していたことから、巡礼センターの認定ガイド数を増やすことを主目的とした研修を実施してきたが(H27、28で76名を認定)、現場の対応が十分とは言えない状況から、H29年度はガイドスキルの向上に主眼を置いた研修を実施していく。</p>		<p>世界遺産登録に向け、今後ますます観光客の増加及びガイドの需要増が見込まれることから、スルーガイド及び地域ガイドの養成・拡大等を更に進め、需要に応えられる受入体制の整備を進めていくことが必要である。</p> <p>また、世界遺産ツアーに関する旅行会社からの問い合わせ対応も増加傾向にあり、そのための受入体制の整備促進も必要不可欠である。</p>	現状維持